中居林小

表現し合い学びを深める子どもの育成

～ 個の考えを全体へ広げる対話の工夫 ～

（３年計画の２年次）

校長　沼舘　寿朗

１　研究主題について

本校では、教育目標を「自分を育てる子」とし、自己を振り返りながらよりよい自分を目指して努力し、自分を高めていく子を育むこととしている。また、努力目標の一つとして「自分の考えをもち、進んで学習する子」を掲げ、相手の考えを理解するためによく聞き、自分の考えと比べたり質問したりしてよさに気付きながら考えを創り上げ、協働して課題解決する子を目指している。今年度の学校目標は、自他を大切にしながら、よりよい生活に向けて自主的に考え、実践していこうとする態度を育てていくことが重要であると考え、「自分やまわりの人を大切にし、主体的に学ぶ子の育成」としている。

昨年度の校内研究では「表現し合い学びを深める子どもの育成」（１年目）の取組の成果として、導入時に児童の中に生まれた問いや思いを共有することで、課題意識が高まり、友達の考えを聞こうとする態度に向上が見られた。また、具体物やＩＣＴ機器等を活用しながら考えの根拠を表現させることで、双方向の対話がしやすくなり、学び合いに深まりが見られた。さらに、発表者の考えを他の児童にも繰り返して発表させることで、個の考えを全体に広げ浸透させることができた。児童の発言をもとにした問い返うことにより、新たな気付きを発表する姿も見られるようになった。自分の立場を明確にさせて学習を進めていくことで、考えを積極的に話そうとする児童も見られた。

課題としては、全体的に見ると発表に対する意欲は高いとは言えないため、発表意欲を高める指導を工夫していく必要がある。対話的な学びには、相手の立場になって話したり、聞いたことをもとに自分の考えを広げようとしたりする姿勢が必要であると考える。そのため、今年度は、話す場面の設定を工夫することにより、学び合いを深める授業づくりを目指したい。

「伝えたい」といった発表意欲を高めるためには、子供一人ひとりに「なぜだろう？」「やってみたい」「こうしたらどう」といった問題意識を高めることが大切である。また、自分の立場を表明させた後に他の立場と比較する場を設けるなどして、「自分の考えを伝えたい」「相手の考えを知りたい」という対話の必要感をもたせることも大切である。よって、児童に、学び合うよさを実感させ、相手の立場になって話し、聞いたことをもとに考えを広げる授業づくりを目指していきたい。そのためにも、板書の工夫や問い返しといった教師のかかわりのもとに対話することを中心とした、小集団交流や全体交流を意図的・計画的に設けていく。そして、交流後、改めて自分の立場を表明させ、振り返りに生かすことにより学び合いによる自分の変容を自覚させていきたい。そのことによって、学び合うよさをさらに実感できるものと考える。

本校児童の実態として、ＣＲＴの意識調査結果を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」は学年が上がるとやや低めの傾向にある。課題を素直に取り組むよさがある一方で、活用問題では諦めたり、自信がもてず受け身になりがちである。児童を能動的に学習へ関わらせるために、話す力を育て、教師の関わり方や効果的な指導の工夫を研究していくこととする。自分と他者の関わりの中で展開される協働的な学習活動を通して、表現し合い学びを深める子どもの育成を目指していく。今年度は、２年目の研究として、自己の考えを全体に広げる対話のあり方に焦点を置き、研究を進めることとする。

２　研究のねらい

一人の考えを全体に広げ、学びを深めるための指導の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童の中に生まれた問いや思い、考えを全体へと広げる対話的な学習を展開することにより、表現し合い学びを深める子どもを育成できるのではないか。

４　研究内容

(1) 児童の中に生まれた問いや思いを全体へ広げて課題意識を高める指導の工夫

(2) 個々の考えを全体へ広げて問題解決につなげる指導の工夫

【具体的な取組】

○導入時の立場の表明と、交流後の立場の再表明

○小集団交流や全体交流の意図的・計画的な設定

○思考の変容の可視化と自己の変容を踏まえた振り返り

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく研究

月	日	内　容
９	２１	第１回授業研究(要請訪問)５学年　国語　授業者　瀧川　恵士 「よりよい学校生活のために」講師：八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事　中村　美穂 氏
		個人で話し合うべき課題や解決策を考え、「Canva」のホワイトボード機能を使って共有することで、個々の考えを全体へ広げ、課題意識をもたせた。話合いの際の話型を統一することで、話合いを通して問題解決を行った。
１０	１１	第２回授業研究(要請訪問)２学年　算数 授業者　野里　文 「三角形と四角形」講師： 八戸市総合教育センター　主任指導主事　小向　一樹 氏
		図形を少しずつ提示していく図形クイズを行うことにより児童の活動意欲を高め、児童の呟きを拾い全体に問い返し、全体に広げていくことで課題意識をもたせた。グループの話合いでは、ホワイトボードに児童の考えを書かせたものを全体共有の場で活用することで、問題解決を行った。
１１	２９	報告会
		授業仮説に沿った授業実践の内容・成果と課題の発表を行い全体共有した。

(2)　一般研修

月	日	内　容
４	１２	今年度の校内研修年間計画について
５	３１	ミニ研修会　ペア対話（教頭 大江雅之)、特別活動に関わる研修（特活主任 馬渡静香）
６	２１	道徳教育に関わる研修会　　授業参観と質疑・応答（道徳推進教員　安ケ平祐美子）
６	２８	特別支援教育に関わる研修会（みどり学級　成田涼子） （６月１９～２３日参観週間：自立活動（モジュールの時間)）授業参観と質疑・応答
８	１８	小中ジョイントスクール推進事業　第一中学校区第２回合同研修会
８	３０	県学習状況調査（５学年）

６　研究の成果

(1)導入時、全体に大きな図形やCanvaの画面を見せるなどして児童の意欲や集中力を高め、問いや考えを共有することによって、課題意識を高めることができた。

(2)児童から出てきた言葉を拾って紹介し全体で共有することで、問題解決につながる話合いを進めることができた。また、個やグループの考えを可視化することで、考えを広げたり深めたりする児童の姿が見られた。

７　研究の課題

(1)話型や反応の例を示すことで、話題からずれることなく相手の話を聞き、共感するような話合いが展開されたが、児童に問題解決への必要感や切実感をもたせるための対話のあり方を工夫していく必要がある。

(2)児童が自分の考えを表現し合い、全体で共有しながら問題解決していく協働的な学びにつなげるための教師の役割について研究を進めていきたい。

（記入者　佐々木 直子）